

「生きる力」をはぐくむ総合的な学習の時間の試み

「総合的な学習」研究会議

鈴木和裕¹ 滝澤真一² 石栗美紀³ 榊原香⁴ 葉倉朋子⁵ 川崎等⁶ (平成10年度)

要 約

本研究では、先行研究から学びつつ「生きる力」と「総合的な学習の時間」とのかかわりを考察するとともに、総合的な学習の軸となる課題づくり及び地域の教育力との連携についての調査研究を行った。

本研究会議では、「生きる力」を主に「実体的な力」と「機能的な力」の二つの力に分けて考えた。実体的な力とは、知識や技能などの従来重視されてきた学力である。一方、機能的な力としては、問題解決的な力や自己責任、かかわり合う力、感動する心や表現力などが考えられる。新教育課程では、実体的な力の確実な定着を図るとともに機能的な力がさらに重視されるようになった。したがって、「生きる力」をはぐくむ「総合的な学習の時間」では、機能的な力をどのように培うかということが重要な視点になると考えられる。そこで、総合的な学習の時間で培う「機能的な力」を「子どもの学びの姿(試案)」として表した。

以上のような考え方に立ち、問題解決的な学習活動の「課題づくりにおける教師のかかわり方」と、生きる力につながる多様な学びが期待できる「地域の教育力との連携のあり方」に焦点をあて、検証授業及び調査分析を行った。

課題づくりについては、その活動における教師の助言や支援のあり方が大きな役割を果たすことになる。子どもの興味・関心を深めるような課題発見のための「めやす」を示したり、十分な体験活動や交流活動を取り入れたりすることが、子どもが主体的に課題づくりをする上で有効であることがわかった。また、個に対する教師のかかわりでは、個の活動の様子に応じて発想の転換を図るような『ゆさぶりの助言』と、子どものよさや可能性が発揮できるような共感的な『寄り添いの助言』を行うことの有効性が見られた。

地域の教育力との連携のあり方においては、学校の日標と地域の願いの双方向のかかわりの中で相互理解を深めていくことが学習に広がりを生み、生きる力の育ちにつながっていくのではないかと考えている。また、地域ボランティアの方々にかかわっていただくなど、新しい発想や教育力を取り入れていくことで、教師の意識改革が図られるとともに、開かれた学校の具現化が進められていくであろう。

キーワード：生きる力、機能的な力、問題解決的な学習、総合的な学習の時間、課題づくり、地域の教育力

目 次

I 主題設定の理由	18	(4) 研究の仮説	22
1. 研究の意義	18	2. 実践を通して「総合的な学習の時間」の 学習活動を探る	24
2. 主題設定に向けて	18	(1) 主体的な課題づくりをするための 教師のかかわり	24
3. 研究の方法	18	(2) 地域の教育力との連携のあり方	29
II 研究の内容	19	III 研究の成果と今後の課題	32
1. 先行研究から学びつつ「生きる力」と「総合的な 学習の時間」のかかわりを考察する	19	1. 研究の成果	32
(1) 「生きる力」の考察	19	2. 今後の課題	32
(2) 「総合的な学習の時間」の 基本的な考え方	20	おわりに	32
(3) 「生きる力」と「総合的な学習の時間」 のかかわり	21	参考文献・指導助言者	32

¹川崎市立南河原小学校教諭(主任研修員)

²川崎市立久地小学校教諭(研修員)

³川崎市立浅田小学校教諭(研修員)

⁴川崎市立桜本中学校教諭(研修員)

⁵川崎市総合教育センター指導主事

⁶川崎市教育委員会指導主事(前総合教育センター研修指導主事)

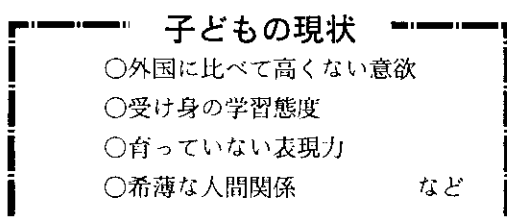
I 主題設定の理由

1. 研究の意義

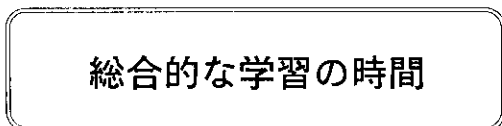
今、子どもたちの現状を考えてみると、積極的に学習する意欲が外国に比べると高くはないことや、覚えることは得意だが学習が受け身であること、自分なりの考えをもちそれを表現する力が充分育っていないことなど、学びから逃げ出しつつある子どもたちが増加していると感じられる。これらを克服するためには、今後「子どもたちは何のために学習するのか。」「子どもたちにどんな力をはぐくむことが大切なのか。」という教育の原点から考え、学校教育のあり方を改善していく必要があると考えられる。

「総合的な学習の時間」は、こうした問題を克服し、学校教育そのものを本質的に転換しようとして創設された。そして、これからの教育では社会の変化に対応する力である「生きる力」を身に付けることが重要であり、「総合的な学習の時間」は、これをはぐくむためにきわめて有効とされている。¹⁾

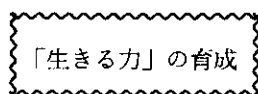
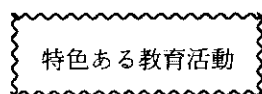
果たして、「総合的な学習の時間」は、先に述べた子どもたちの現状を克服できるのだろうか。この時間の学習において、学ぶことの楽しさを感じたり、人とかかわることの喜びを実感したり、また、自ら課題を発見し追究し続けていく力などが身につくのだろうか。「総合的な学習の時間」が、これらの子どもの現状克服に有効であるのかということを実践を通して研究することが大切であると考えられる。



↑ 克服するために有効か? ↑



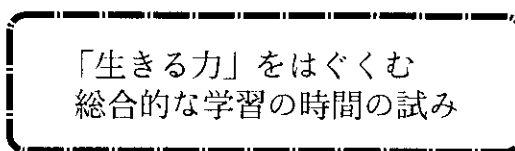
↑ 創設の趣旨 ↑



2. 主題設定に向けて

「総合的な学習の時間」は、「生きる力」をはぐくむためにきわめて有効とされている。したがって、子どもたちの現状克服につながるかどうかということを確認するためには、「生きる力」とはどのようなものなのか、また、「生きる力」は「総合的な学習の時間」とどのようなかかわりがあるのかということを中心に研究を進めていくことが大切である。それにより「総合的な学習の時間」の学習の具体的な姿も見えてくるものと考えた。

そこで、本研究会議では、「総合的な学習の時間」で「生きる力」をはぐくむことを前提として、次のようなテーマを設定することにした。



3. 研究の方法

本研究会議では、次のような方法で研究を進めた。

●先行研究から学びつつ「生きる力」と「総合的な学習の時間」とのかかわりを考察する

先行研究から、研究会議として「生きる力」の捉え方や「総合的な学習の時間」のねらいや活動を明らかにする。そして、「生きる力」と「総合的な学習の時間」のかかわりについて研究会議の考えをまとめる。

●実践を通して「総合的な学習の時間」の学習活動を探る

先行研究で学んだことから課題づくりにおける教師のかかわりと地域の人材の活用の仕方について、実践を通して検証、分析する。

¹⁾ 第15期中央教育審議会「第一次答申」

1996年 7月

Ⅱ 研究の内容

1. 先行研究から学びつつ「生きる力」と「総合的な学習の時間」のかかわりを考察する

(1) 「生きる力」の考察

① 「生きる力」の捉え

第15期中央教育審議会「第一次答申」(以後「中教審」)で提言された「生きる力」とは、どのような教育観なのか、「生きる力」の原文から考えてみた。

生きる力

いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を「生きる力」と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた。

〔生きる力〕は、全人的な力であり、幅広く様々な観点から敷衍することができる。

(中教審から抜粋)

以上のように、この「生きる力」は、「問題解決的な資質・能力」や「自律やかかわり」「健康」などの面にも言及されている。

中教審では、全人的な力としての「生きる力」をさらに次のように説明している。

○単に過去の知識を記憶しているということではなく、自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力

○感動する心や倫理観、温かい心

○健康や体力

この3つの事柄は、それぞれ従来から言われている「知・徳・体」にあたり、バランスのとれた教育を展開することが大切であるとしている。²⁾

②二元的に捉えた「生きる力」

この「生きる力」は、前述のように「幅広くさまざまな観点から敷衍することができる」と述べられていることから、画一的にとらえて定義づけるものではなく、学校ごとに向かうべき方向を定め、独自の視点で構想すべきものととらえることが望ましい。³⁾

そこで、研究会議として、「生きる力」がどのようなはたらきをする力で成り立っているかという視点に立って考えてみることにした。

まず、「全人的な力としての生きる力」が「文化や社会についての知識を基礎としつつ、社会生活において実際に生かされるもの」⁴⁾として中教審で説明されている。この基礎となる「文化や社会についての知識」は、いわゆる「内容」であり、従来、学力として重視されていたものである。そして、これは獲得するものとして見えやすく、ある程度の共通性がある。いわゆる「実体を伴う力」と言えるのではないだろうか。

一方、知識が「社会生活において実際に生かされるもの」になるためには、前述の「問題解決の力」や「心」、内面を含んだ「健康」などが機能することが必要と考えられる。この問題解決の力などは、その存在が個によって多様であり、その量や質については測りにくく捉えにくいものである。この力は、内面的な側面が多いため、個によって必要性や指導の仕方が異なる個性的な力と考えられる。しかも、もっている知識のある目的や方向に向かって生かしたり、自らをより高めたりするはたらきをする、いわゆる方向性をもった「機能する力」と言えるのではないだろうか。このように、「生きる力」は、「実体的な力」と、「機能的な力」の二元的に分けて考えることができる。⁵⁾

²⁾ 第15期中央教育審議会 「第一次答申」
1996年7月

³⁾ 星村平和 『キーワード中教審読本』
1996年11月 P.74

⁴⁾ 第15期中央教育審議会 「第一次答申」
1996年7月

⁵⁾ 「教育じほう」No.599 東京都立教育研究所
1997年12月 P.34

③「実体的な力」と「機能的な力」で培いたい力

「実体的な力」と「機能的な力」では、具体的にどのような力を培えばよいのだろうか。中教審の「生きる力」から、研究会議として考えてみたい。

実体的な力としては、従来重視されてきた到達度がわかりやすい社会生活における知識や技能が存在するだろう。

機能的な力としては、まず、自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力がある。自覚や責任をもって行動する態度も考えられる。たくましく生きていくための健康や体力を含めて、これらを「自ら生きる力」と考えた。また、互いを認め合い共に生きていく態度や他人を思いやる心などは、「共に生きる力」と考えた。さらに、美しいものや自然に感動するなどの感じる心や感性、思いや発想を生かし新たに創ったり表現したりする力は、機能的な力としてベースとなるものと捉え、「豊かに生きる力」と考えた。

二元的に捉えた「生きる力」

●実体的な力

- 社会生活において必要な知識や技能 など

●機能的な力

○自ら生きる力

- ・自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力
- ・自覚や責任をもって行動する態度
- ・たくましく生きるための健康や体力 など

○共に生きる力

- ・互いを認め合い、共に生きていく態度
- ・他人を思いやる心 など

○豊かに生きる力

- ・美しいものや自然に感動するなどの感じる心や感性
- ・思いや発想を生かし、新たに創ったり表現しようとする力 など

(2)「総合的な学習の時間」の基本的な考え方

①「総合的な学習の時間」のねらいと学習活動

新学習指導要領で述べられている「総合的な学習の時間」のねらいは次の通りである。

「総合的な学習の時間」のねらい

- (1)自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- (2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。⁶⁾ (新学習指導要領より抜粋)

これらのねらいを受けて新学習指導要領に示されている学習活動の視点は、次の通りである。

- 例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題
- 児童の興味・関心に基づく課題
- 地域や学校の特色に応じた課題 など

これらの3つの課題の関係を次のように考えた。

環境的なものに目を向けた学習活動を行う場合、子どもたちの生活の場である地域がテーマの重要な手がかりになり、その過程では児童生徒の興味・関心を抜きにしては成り立たないだろう。つまり、3つの課題は、実際の学習ではしきりがなく相互に入り組んでおり、かかわり合いながら展開されるものと考えられる。

したがって、学習内容を考える場合は、学校や地域の実態を充分考慮するとともに、「総合的な学習の時間」のねらいが達成できるような学習活動を工夫する必要がある。

これらの課題の学習活動における留意点について、各学校段階ごとに教課審や審議の経過、新学習指導要領等から次のようにまとめた。

⁶⁾ 第15期中央教育審議会「第一次答申」

1996年7月

②小学校における学習活動

小学生の発達段階を考えると、子どもたちの身近な生活の中から、また興味・関心、住んでいる地域の中から学習対象を求めていく必要がある。また、体験的な学習や問題解決的な学習において、自分の力では課題がなかなか見つからないことが考えられる。したがって、課題を発見する手がかりを示したり、いくつかの課題を選択させたりするなどの支援が必要となると考えられる。

現在の社会の動向を考えると、国際化と情報化が急速に進む中で、「総合的な学習の時間」において、小学校段階にふさわしい外国語会話等の国際理解や情報に関する学習も無視できないものであると思われる。その場合、外部講師指導体制を組むことが必要であろう。この体制づくりは、各学校だけでなく、市町村委員会の協力を得たい。これは、中学校や高等学校においても同様である。

環境学習や地域学習などを行う場合は、自分をとりまく身近な環境としての地域に目を向け、保護者や地域住民と連携を図りながらダイナミックに学習活動を展開することが大切である。

③中学校における学習活動

中学校では、教科担任という形の中で学習が行われていくため、教科担任の垣根を低くしていく必要が起きてくる。いっしょに同じ単元をつくっていくなど、相互関連的な扱いから進めていくことが大切になり、学校全体としての指導体制が必要である。生徒の関心が教科の専門を越えて広がっていくことを考えると、異専門、異業種によるチームティーチング等、地域の専門家の力を借りていくことも重要になる。

また、生徒が自ら課題を発見し、見通しをもって活動に取り組む中で、情報通信ネットワーク等をより活用して、環境、国際などの課題追究をさらに広げ深めるようにしていきたい。このような活動を通して、特に学校で学ぶ知識と実生活との結びつき、知の総合化の視点を重視し、各教科等で得た知識や技能等が実生活において生かされ総合的に働くようにすることが大切である。

④高等学校における学習活動

高等学校においては、教科、科目で習得した知識・技能等を駆使して特定の課題について多角的に追究し、その過程や結果を通して、知の総合化を図る学習活動が有効である。

また、国際理解や情報、環境、福祉・健康などの横断的で総合的な課題について、自ら課題を見だし、ねばり強く研究を行い、創意ある研究報告書を作成する学習が有効と思われる。

(3)「生きる力」と

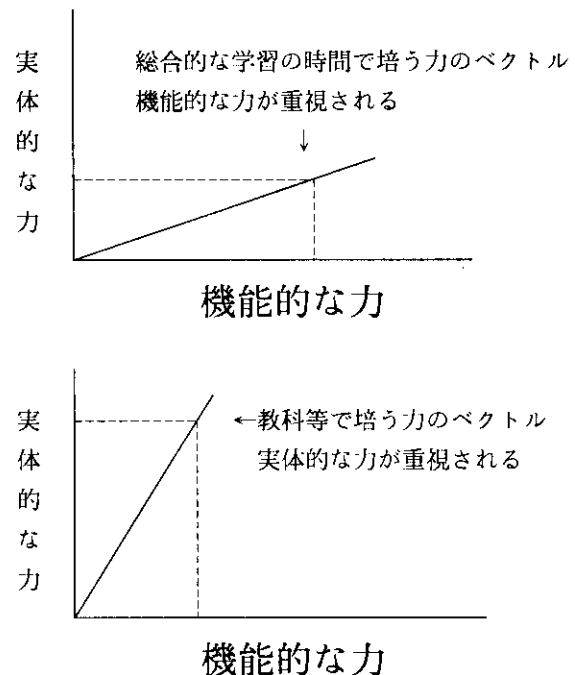
「総合的な学習の時間」のかかわり

「総合的な学習の時間」のねらいや新学習指導要領で示された学習活動の視点では、問題を解決する資質や能力といった学び方や主体的、創造的に取り組む態度などに関することが重要視されている。

したがって、総合的な学習で培うことは、機能的な力をより活発に機能させて学習することにより、教科等で培ってきた「知」が総合化されて、生活に生かすことができる実践力を伴った「知恵」になっていくものと思われる。(図1参照)

(図1)

【総合的な学習の時間と教科における培う力としての「実体的な力」と「機能的な力」の相関】



実際の授業では、培いたい機能的な力とは何かということ整理して、具体的に培う力を子どもの学びの姿として実態から分析し、教師のかかわりなどのよりどころにすることが大切であると思われる。本研究会議では、試案として「総合的な学習の時間で培いたい力と子どもの学びの姿」を考えた。(紀要23ページ参照)これは、子どもに身についた培う力を学びの姿の方向性として表したものであり、到達度を示したものではない。また、学校の実態によって子どもの姿は異なるため、各学校において子どもの実態に応じた「学びの姿」を分析する必要があると考える。

また、この機能的な力を培うためには、一定の知識を覚え込むのではなく、直接体験や問題解決に自ら取り組む学習を積極的に取り入れていく必要がある。そのため

に、本研究会議では自ら課題を見つけ自ら考え問題を解決する学習過程について次のように考えた。(図2参照) 主に、課題の発見、設定、追究、まとめ、成果の確認という過程が考えられ、課題が設定される過程では、体験などを通して疑問や興味をもち、課題の見通しをもったり吟味を重ねたりしながら課題設定に至ると考えられる。

また、追究の段階では、広まったり深まったりする試行錯誤の活動が連続するのではないかと考えられる。このような活動をする中で、自らふり返り課題を追究することにより自分の力で解決する姿勢が培われるものと思われる。追究の途中やまとめた後の段階では、他者とかかわるなどして成果の確認をすることにより、自らの活動の方向性を見極めたり達成感を実感するために有効であると思われる。

(4)研究の仮説

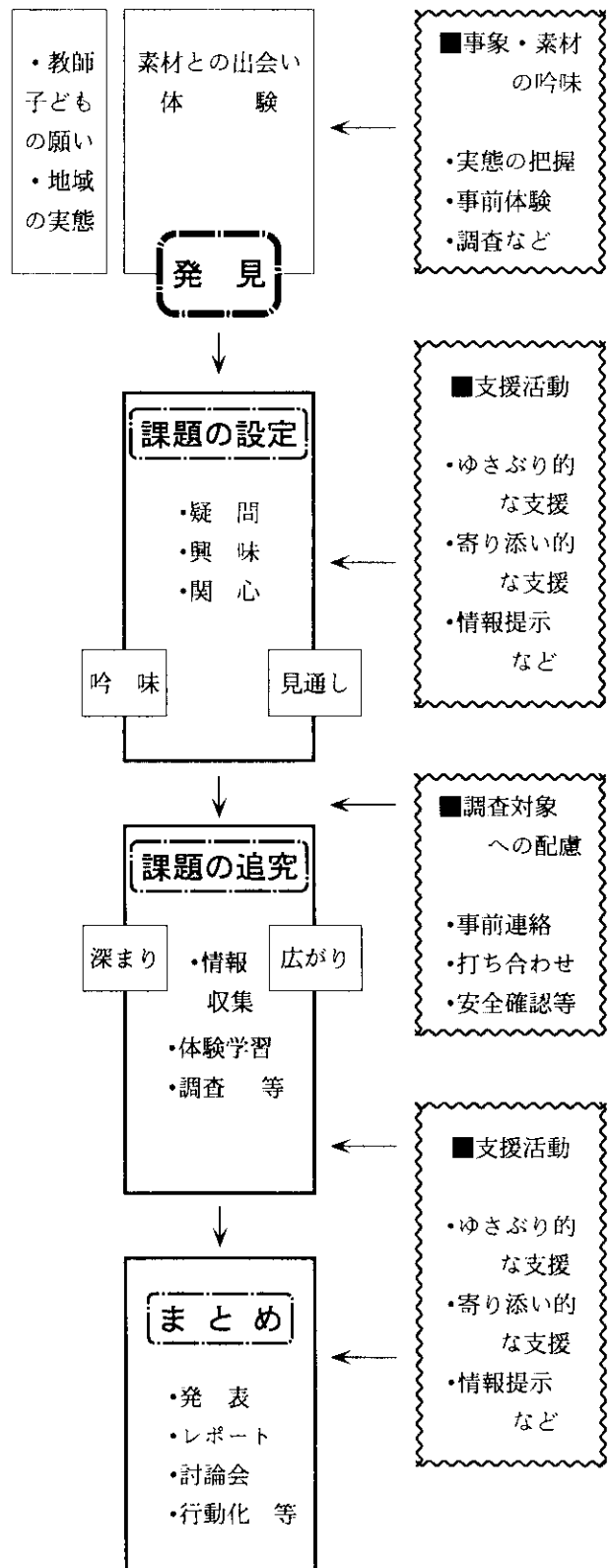
問題解決的な学習においては、課題がその後の活動を大きく左右する。そこで、課題づくりに焦点を当て、子ども全体と個へのかかわりの二つに注目して検証を行うことにした。また、総合的な学習の時間の学習活動は、地域社会にかかわっているものが多いと考えられ、地域の人々から様々な協力、反応を得ることなどの多様な学びが生きる力につながると考えられる。そこで、地域の人材に焦点を当てて調査分析をすることにした。

研究の仮説

1. 子どもが自ら主体的に課題づくりをするためには、子どもの実態をとらえた教師のかかわりが大切になるだろう。
 ~実践授業を通して検証すること~
 <全体へのかかわり>
 ○課題を見直すめやすを与える。
 ○体験的な活動や互いの課題についての交流を促したりする。
 <個へのかかわり>
 ○個に応じた助言をする。
2. 地域の力を生かすことにより多様な学びが得られ、生きる力を培うことにつながるだろう。
 ~調査分析の視点~
 ○地域の人材が教育活動の企画段階と活動段階にかかわる実践から、地域の人材の生かし方を探る。

(図2)

[総合的な学習の時間における 問題解決的な学習過程例]



[総合的な学習の時間で培いたい力と学びの姿]

(試案)

	「子どもの学びの姿」	→	→
<p>培いたい力</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力 	<p>○身の回りの生活から事実を受け止め問題意識をもつ。</p> <p>○問題解決に向けて、試したりくり返したりする。</p> <p>○感じたことを話したり書いたりして伝える。</p>	<p>○身の回りの生活から課題を設定する。課題設定の方法を見つける。</p> <p>○必要な情報を選ぶ。仕組みや事象を正しくとらえ、相違点、共通点を知る。活動したことをふり返る。</p> <p>○結果について自分なりの表現方法で発表する。</p>	<p>○身の回りの生活や社会から課題を設定する。見通しをもち、課題解決の計画を立てる。</p> <p>○適切な資料や情報を判断したり選択したりする。</p> <p>○事実に基づいて相互関係や因果関係をつかんで判断したり、論理的に考察したりする。ふり返りを生かし、よりよい方向への実践を行う。</p> <p>○結果の考察から、自分なりの価値をもち、追究結果をわかりやすくまとめ工夫したり表現方法で発表する。</p>
<p>自ら生きる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自覚や責任をもって行動する態度 ●たくましく生きるための健康や体力 	<p>○好きなこと、自分のよさ、自分の体のことについて自己決定する。</p> <p>○自分の心や体を大切にする。</p>	<p>○自分の立場を認識する。</p> <p>○こだわりをもって活動を続けようとする。</p> <p>○自分の心や体の変化に気付き、自分なりの対応をする。</p>	<p>○自分の成長を知り、自己を問い直す。</p> <p>○ねばり強く活動を継続する。生活の中でも継続して取り組む。</p> <p>○口頃から心や健康に心がけ、よりよい方向への努力をする。</p>
<p>共に生きる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ●互いを認め合い共に生きていく態度 	<p>○ありのままを認めようとする。</p> <p>○自他のよさを見つけて仲良くする。</p> <p>○身近なことに対して関心をもつ。</p> <p>○異文化の違いに気付き、興味をもつ。</p> <p>○相手に自分なりの思いや考えを伝える。</p>	<p>○自然や相手（人）の立場を正しくとらえ、認める。</p> <p>○自他の相違点、共通点に気付き、他との関係をよくししようとする。</p> <p>○共存、循環の視点を理解する。</p> <p>○異文化を受け入れようとする。</p> <p>○自然や人の立場を理解して、かかわり方を考えようとする。</p> <p>○身近なところから試したり、行動したりする。</p>	<p>○広い視野で互いの個性を認め合い、共によりよく生きようとする。</p> <p>○問題の背景を広い視点でとらえ、深める。</p> <p>○共存、循環の視点を広くとらえる。</p> <p>○人間と環境に対して、様々な視点から総合的に理解し、自分の考えをまとめようとする。</p> <p>○進んで異文化との交流を求めようとする。</p> <p>○より様々なコミュニケーション方法を駆使して交流を深める。</p> <p>○共に生きていくための方法や態度を考え行動しようとする。</p> <p>○葛藤場面に身をおく。学び合いを追究活動に生かす。</p>
<p>豊かに生きる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ●美しいものや自然に感動するなどの感じる心や感性 ●思いや発想を生かし、新たに創ったり表現しようとする力 	<p>○思いやりの心を知る。</p> <p>○身近な事象などに関心をもったり感動したりする。</p> <p>○感じたことを表現する。</p>	<p>○思いやりの心をもつ。</p> <p>○美しさやすばらしさを自分なりに対象化して感じ取る。</p> <p>○自分なりの表現をする。</p>	<p>○思いやりの気持ちをもって行動する。</p> <p>○自分の価値観でないものに対してでも対象化して感じたり、行動したりする。</p> <p>○体感したことを次の活動に生かす。</p> <p>○目的に応じた表現を工夫したり、表現を楽しんだりする。</p>

2. 実践を通して「総合的な学習の時間」の学習活動を探る

(1) 主体的に課題づくりをするための教師のかかわり

総合的な学習の時間で培いたい力は、主に「生きる力」である。そのためには、問題解決的な学習を積極的に取り入れることが大切である。ここでは、課題に向かって試行錯誤したり、方向性の吟味をしたりしながら活動していくと思われる。(図2参照) 課題は現実の生の問題が多いため解決されない場合も考えられるが、問題解決に主体的に取り組む態度を育てながら、課題追究としてのプロセス重視の考え方に立つことが望まれる。

また、この問題解決的な学習は、課題に向かって追究していくことから、主体的な課題づくりが特に重要である。課題としては、「横断的・総合的な課題」「児童の興味・関心に基づく課題」「地域や学校の特色に応じた課題」などが考えられるが、自らの力で設定し自分のものになっていることが望まれている。

つまり、解決の見通しができたり、自らがこだわりをもったり納得したりして学習に取り組めるように、教師が適切にかかわることが必要になる。(図3参照) そのかかわりは、主に活動の場や時間の設定などの全体に対する助言と、個に対する助言があると考えられる。

そこで、本実践では課題づくりにおける教師のかかわりについて、教師の助言に着目して実践を行うことにした。

①M小学校における実践

<M小学校の実態>

M小学校の子どもたちは、素直で活動的である。伝統として、お茶や梨、大根の栽培など自然とのふれ合い活動や老人ホームでの体験学習を全校的に行っている。「主体性をはぐくむ」という教育目標で長年研究に取り組んでおり、今年度から新教育課程に向けて研究を開始した。

本校は、代表委員会や実行委員活動が盛んであり、ふだんの学習や行事等で子どもたちが主体的に計画し活動することに慣れている。

検証授業を行った5年3組のクラスは、男子19名、女子10名、計29名である。ふだんの授業では、調べ学習などに根気強く取り組む児童が多いが、こだわりをもって最後までつきつめる児童はまだ多くない。行事として自然とのふれ合いは行っているが、今回のような「総合的な学習の時間」に向けた学習で課題づくりをするには慣れていない。

このような実態から、興味・関心から発展した課題がこだわりのある自分の課題になるように、活動の場の設定や課題の自己決定の観点などの教師のかかわりを大切に考えて授業を行うことにした。

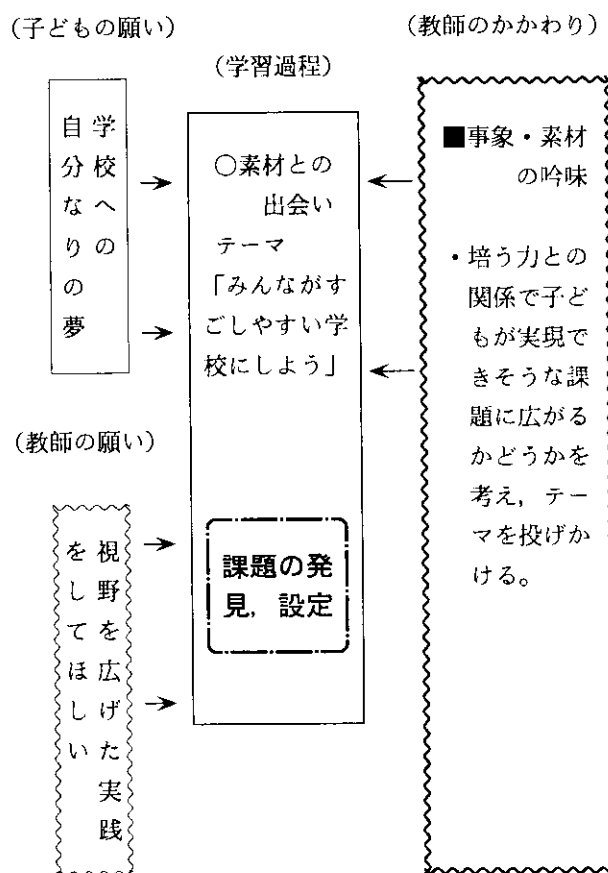
<実践授業の取り組み>

国語の単元「こんな学校にしたい」という学習からの発展で、子どもたちが学校への自分なりの夢をもったことをきっかけに取り組んだ。

また、教師の願いとして、この学習を機会に自分のことだけでなく、周りの人たちにも視野を広げながら、実際の学校生活を見つめ直してできることを実践して欲しいと考えた。そこで、朝の会等で教師の方から話題を提供し、「みんながすごしやすい学校にしよう」というテーマでこの学習活動を行った。(図3参照)

(図3)

<テーマとの出会いにおける教師の願いとかかわり>



②単元における検証の実際

- 課題の発見・設定場面における全体へのかかわりの手だて→
- 個へのかかわり（助言）は、「交流の場面を取り入れて課題を設定した場合」で行った。

	学 習 活 動	支 援	培いたい力
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○「国語」で、「こんな学校にしたい」という作文を書く学習をする。 ○朝・帰りの会で、ふだんの学校生活についてふり返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に「培う力」を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・問題意識をもつ ・相手の立場をとらえる ・他との関係をよりよくする ・身近なところから試したり行動したりする 	
つ	<p style="text-align: center;">漠然としたテーマを投げかけた場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんながすごしやすい学校にしよう」というテーマで考えた課題を発表し合い、意見を交流する。 ○「みんなが」ということを考えて課題を考えるように助言する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">みんながすごしやすい学校にしよう</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識をもつ ・相手の立場をとらえる ・他との関係をよりよくしようとする
	<p>●個人的な欲求や嗜好的な課題が多く、課題として追究していけるものはまだ少ない。</p>		
	<p style="text-align: center;">課題設定のめやすを投げかけた場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ○めやすを参考にして課題を考える。 ○課題設定のめやすを提示する。 <ol style="list-style-type: none"> ①「みんながすごしやすい学校にしよう」というテーマが解決できるような課題 ②自分が一番やってみみたいことであり、自分たちの力で解決できそうな課題 ③実際に試したり実験したり作ったりする活動を通して解決する課題 		
	<p>●めやすに合った現実的な課題が多くなってきたが、解決への必要感や具体性に欠けるものが多い。</p>		
か	<p style="text-align: center;">体験を取り入れて課題を設定した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験を通して自己課題を探す。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の中を調べる。 ・インタビューをする。 ・施設を実際に使う。 ○学習の時間だけでなく、登下校や休み時間、給食、掃除の時間などの学校生活全般の生活から課題を見つけるようにする。 ○いくつかの候補課題を考えるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・身近なところから試したり行動したりする
	<p>●必要感、切実感のある課題が多くなってきたが、具体的な見通しが立っていないものも多い。</p>		
む	<p style="text-align: center;">交流の場面を取り入れて課題を設定した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いの課題や解決の方法等について、知りたいことや疑問に思うことなどの意見交流をする。 ○自分の課題や見直しを見直して、まとめる。 ○自己課題の設定の仕方について吟味をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・個や場面に応じて『ゆさぶりの助言』や『寄り添いの助言』を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自他の相違点、共通点などに気付く ・考えたことをふり返る ・課題を自己決定する
	<p>●課題の内容や追究の仕方について意見交流することで、解決までの見直しをもつことの必要性を感じた子が多かった。また、友達の課題の説明を聞くことで、課題が決まらなかった子が自分の考えに近い課題を選び課題とすることができた。</p>		
ふかめる	<ul style="list-style-type: none"> ○自己課題の追究 <ul style="list-style-type: none"> ・調査やインタビューなど、個々の方法で追究する。 ○活動のふり返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・報告会で意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取組の方向性について吟味をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわりをもって追究する
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ○成果の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表会を行い、感想を述べ合う。 ○活動に対する自己評価を行う <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの後カードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会の形式は、テーマの種類によって児童が決めるようにする。 ○これからの活動への期待を含めてふり返りを行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに表現することや考えたことをふり返る

③具体的な取組

主体的に課題づくりをするために 教師は全体にどうかかわればよいか

～教師のかかわりと子どもが設定した課題～

・テーマは教師から投げかけ、テーマにそった課題を子どもが設定した。

	教師のかかわり	子どもが設定した課題		
漠然としたテーマを投げかけた場合	<ul style="list-style-type: none"> ●「みんなが過ごしやすい学校にしよう」というテーマを投げかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎けんかをなくしたい。 ◎プールの時、自由遊びがほしい。 ◎休み時間にテレビを見られたら楽しくなる。 ◎休み時間でもボールをけれるようにしたい。 ◎けんかをなくしたい。 <p style="text-align: right;">等</p> <p>※課題が設定できなかった子ども→7名</p>		
課題設定のめやすを投げかけた場合	<ul style="list-style-type: none"> ●「みんなが過ごしやすい」ということについて話し合い、課題を考えるようにした。 ●課題の条件として次のことを投げかけた。 <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなが過ごしやすい学校にしよう」というテーマが解決できるような課題であること ・自分が一番やってみたいことであり、自分で解決できそうな課題であること ・実際にためしたり実験したり作ったりする活動を通して解決するような課題であること 	<ul style="list-style-type: none"> ◎放送や掲示をやりたい。 ◎放送や掲示をやりたい。 ◎放送委員会のリクエストカードを工夫しよう。 ◎けがをしないように落ちている物を拾おう。 <p style="text-align: right;">等</p> <p>※課題が設定できなかった子ども→4名</p>		
体験をとり入れて課題を設定した場合	<ul style="list-style-type: none"> ●校内を調べたり、試したり、実験したりして課題を見つけるように投げかけた。 <ul style="list-style-type: none"> ・体育倉庫の整理をしてみよう。 ・畑を見に行ってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎運びにくいマットを運びやすくしよう。 ◎片づけやすくするために給食のお盆の返し方を工夫しよう。 ◎カラスが畑の野菜を食べないようにしよう。 ◎一輪車置き場を使いやすくしよう。 <p style="text-align: right;">等</p> <p>※インタビューから課題を設定した子ども→10名 ※課題が設定できなかった子ども→3名</p>		
交流の場面をとり入れて課題を設定した場合	<ul style="list-style-type: none"> ●解決の見通しをもって課題を見つけるように投げかけた。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で解決できそうか。 ・学校の物を使う場合はどうしたらよいか。 ・解決するためには何が必要か。 など ●友達の課題から、気がついたことについて話し合う場の設定をした。 ●課題の見通しの立て方について、例を挙げて示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体育用具の使い方を1年生に教えてあげよう。 ◎けがのない学校になるようにビデオをつくらせてあげよう。 ◎カラスの性質を調べて畑の野菜を食べられないように工夫しよう。 ◎学校の敷地にポイ捨てをしないような工夫をしよう。 ◎渡り廊下の脇を花いっぱいにしてよう。 <p style="text-align: right;">等</p> <p>※課題が設定できなかった子ども→0名</p>		
	<p><話し合いによる見通しの変容></p> <p style="text-align: center;">～D児の「渡り廊下の脇を花いっぱいにしてよう」の課題の見通しから～</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(話し合いの前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種は自分たちで買う ・プランターに種をまく ・明るくする ・明るくする ・花は春の花と秋の花 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(話し合い後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の許可をもらう ・プランターを置く場所を考える ・花の種類や育て方を調べる ・花の種類や育て方を調べる ・必要な物と費用を調べる </td> </tr> </table>		<p>(話し合いの前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種は自分たちで買う ・プランターに種をまく ・明るくする ・明るくする ・花は春の花と秋の花 	<p>(話し合い後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の許可をもらう ・プランターを置く場所を考える ・花の種類や育て方を調べる ・花の種類や育て方を調べる ・必要な物と費用を調べる
<p>(話し合いの前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種は自分たちで買う ・プランターに種をまく ・明るくする ・明るくする ・花は春の花と秋の花 	<p>(話し合い後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の許可をもらう ・プランターを置く場所を考える ・花の種類や育て方を調べる ・花の種類や育て方を調べる ・必要な物と費用を調べる 			

●考 察

子どもたちにとって価値ある課題を自分の力で作成するために、課題のめやすを意識させたり、体験や交流活動を取り入れたりしながら検証を行ってきた。その結果、めやすを与えることにより課題の方向性（価値）がわかった。また、体験を取り入れることで必要感を実感し、交流活動では見通しの明確化や視野を広げることに有効だった。しかし、これらの手だけではテーマが生まれた背景や子どもの実態等により、その支援の仕方を工夫することが大切であると考えた。

本研究会議では、学習課題が生まれるみちすじについて、次のように場合に応じて工夫できるのではないかと考えた。

課題づくりをしていくためには、発見を促す学習材やテーマが重要になる。今回の授業実践の課題である「みんなが過ごしやすい学校にしよう」は、実践した学校の口頃の実態から特別活動の学習内容に類似してしまい、活動の違いが曖昧になってしまったことは反省すべきことである。

学習課題が生まれるみちすじの工夫

■課題づくりの仕方から学ぶ場合

- ・課題の見付け方に慣れていない実態の場合は、テーマの話し合いや課題作成のめやすをはじめに支援すると、子どもにとって活動の方法がわかりやすいのではないだろうか。

テーマの投げかけ、話し合い－課題作成のめやすを与える－課題さがしの体験－課題の交流

(A)

(B)

(C)

(D)

■体験を中心として課題づくりをする場合

- ・思いに残るような体験から課題づくりをしたり、まず体験しないと実感できないようなテーマだったりする場合は、次のようなすじみちが考えられるのではないだろうか。

<課題づくりの仕方に慣れていない実態の場合>

課題さがしの体験－課題の交流

(C)

(D)

<課題づくりの仕方に慣れていない実態の場合>

課題さがしの体験－課題作成のめやすを与える－課題の交流

(C)

(B)

(D)

主体的に課題づくりをするために 教師は全体にどうかかわればよいか

～助言に着目して～

課題の見直しをしたり、解決の見通しをもつ活動において、子どもをどう見取って支援していくかという助言のあり方について検証した。

児童の実態と助言の意図	児童の実態と助言の意図
<p>D児の課題</p> <p style="text-align: center;">「渡り廊下の脇を花いっぱいにしてよう」</p> <p>・D児（男子）は、設定した課題についてある程度見通しをもっていたが、具体的な活動の手順までは見通しをもっていない。そこで、ゆさぶりを与えて多面的な考えをもたせたり、具体的な方法を聞くなど考えを深めるような助言を行い、更に深い見通しをもたせたいと考えた。また、この助言を通して他の子にも見通しの立て方や意見交流の仕方を参考にさせたいと考えた。</p>	<p>・N児（男子）は、3時間ほど課題さがしをしてもなかなかこだわった課題を発見することができない。ふだんの学習では、自分が興味をもっていることに対してだけ積極的にかかわる傾向があり、できないことにつかると意欲がなくなり活動をさけてしまうこともある。また、自分から創造することは不得意である。このような実態から、この子に対しては、他の友だちの課題を投げかけることで、少しでも自分の思いに合った課題を選ばせ、一步一步進めるよう支援していきたいと考えた。そこで、意志を確認したり、課題を投げかけたりする『寄り添いの助言』を行った。</p>
ゆさぶりの助言の実際	寄り添いの助言の実際
<p>T：Dさんが見通しを立てたようだからみんなに教えてあげてください。</p> <p>D児：まず、渡り廊下の柱の所にプランターを並べます。花や種を自分たちで買いたと思います。花は春の花と秋の花です。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ゆさぶりを与える助言</p> <p>T：渡り廊下にプランターを並べたらいけないと他の先生に言われたらどうするの？</p> </div> <p>D児：先生の許可を得てから計画を進めたいと思います。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">考えが深まることを促す助言</p> <p>T：春と秋の花はどんなものがあるのですか？いつまけばいいのかな？</p> </div> <p>D児：それもこれから調べる必要があると思います。</p> <p style="text-align: center;">⋮</p> <p style="text-align: center;">⋮</p> <p style="text-align: center;">⋮</p> <p>T：はじめの計画よりやるのがいっぱい出てきたね。やる順番も考えないといけないね。</p>	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">意志確認のための助言</p> <p>T：Nさん、なかなか自分に合った課題が見つからないようだけど、みんなの課題を見てどうですか？</p> </div> <p>N児：（首をかしげて考えている）</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">課題選択を促す助言</p> <p>T：自分だけの課題じゃなくてもいいんだよ。○さんたちみたいにいっしょに活動してもいいよ。いっしょにやってもいいという人はいないかな。</p> </div> <p style="text-align: center;">（T児、S児が手を挙げる）</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">課題例を投げかける助言</p> <p>T：Tさんは、「学校をきれいにしよう」という課題だったね。Sさんは、「きれいな教室」だったね。スタッフ募集しているそうだよ。</p> </div> <p><授業後のN児とのかかわり> 授業後に、N児に今日見たみんなの課題の中で自分のやりたいものに近いものがあるかどうかを聞いてみた。T児の課題が自分が考えに近いということがわかったが、自分では言い出せないでいるため、教師が付き添ってT児の所に行き、いっしょに活動することを話した。ちょっとした教師の橋渡しで、以後、N児は意欲的に課題に向かって活動している。</p>

●考 察

課題づくりにおいて、子どもの実態に応じてゆさぶりの助言や寄り添いの助言をすることにより、子どもが自ら考えて課題を深めていくことにつながるが見られた。その際、子どもの思いや活動の経過を十分に

把握することが大切である。また、「子どもに何を培うか」「何が課題として望ましいのか」ということについて、事前に指導者側で充分吟味しておき、それに向けての適切な助言が必要であると考えられる。

(2) 地域の教育力との連携のあり方

地域の人材を

どのように生かすか

子どもたちに「生きる力」を培うためには、子どもたちの生活の場である地域の教育力を生かした学習活動が大切である。従来は、学校と地域の連携を進めていく方法として「学校発信型」がほとんどであり、地域の人材（ボランティア）は学習活動の段階で参画することが多かった。しかし、今後は豊かな教育活動を創るために、学校と地域や保護者などが、互いにねらいを共有して「協力し合いながら行う型」や「地域発信型」の連携が大切になってくる。そのため、地域の人材が企画段階から参画することが考えられるようになってくる。本研究会議では、企画段階と活動段階において人材を生かしている例を中心に取り上げて調査分析を行った。

～企画段階から地域の力を生かす事例～

(H小学校の例)

<子どもの実態>

- ・知的好奇心が旺盛で自己主張がよくできる。
- ・相手意識をもって自分を表現することが課題である。

<地域保護者の実態>

- ・教育熱心でボランティアの気風にあふれている。
- ・地域の行事等の企画力や行動力に優れている。
- ・外国生活経験者が多い。(文部省の帰国子女教育研究協力校)

<アーヒスタ(外国語に親しもう)の活動>

H小では、総合的な学習の時間の構想として「横断的・総合的な学習」、「児童の興味関心に基づく学習」、「地域や学校の特色を生かした学習」の3つの学習活動を考えている。アーヒスタ(「外国語に親しもう」)の学習は、地域や学校の特色を生かした学習の一環として行われている活動の一つである。アーヒスタとは、ウルドゥ語の「アーヒスタチャレン」(ゆっくりいきましよう)からとったものである。各国の言葉で挨拶をしたり、遊び歌を歌ったり、学年によっては外国の友達にビデオレターを送ったりする活動を行っている。この活動は、「企画からの地域参加」を呼びかけ実施している。

<地域の人材と連携するための組織>

「アーヒスタ(外国語に親しもう)」の活動において、ボランティアとの連携をするために、次のような組織・運営面の工夫をしている。

企画会

- ・子どもの様子や興味関心、地域の願い、教師の願いを考え合わせながら「外国語に親しもう」の年間活動計画の立案を行う。共通理解を図りながら「外国語に親しもう」の活動内容・方法を話し合い、運営していく。
- ・構成員は、企画ボランティア約10名、校長、教頭、教務、学校の担当代表(ふれ合い部)である。
- ・原則として月1回の定例会をとるが、必要に応じて企画会で次回の会議日程を決め実施する。
- ・ボランティアの連絡調整役を2名選出し、司会はその連絡調整役が輪番であたる。
- ・記録は会員が輪番で担当し、教務が「アーヒスタだより」を会員と教職員に配布し、共通理解を図るようにする。

ふれ合い部

- ・学校としての担当は、各学年教師の代表者で構成されるふれあい部があたる。
- ・アーヒスタの企画会で話し合われたことを、研究ふれ合い部に伝え、さらに検討しよりよく実施するために連携を強めていく。
- ・活動したことについて学校としての考えを検討したり提案したりする。

アーヒスタ学年会

- ・実際の活動で子どもの実態に応じてどのような連携をすればよいかを学年ごとに具体的に検討する。
- ・学年の担任と学年担当の企画ボランティアで構成される。

<学校と地域のつながりと活動の流れ>

(学校組織)

(『企画ボランティア』の活動)

